未来を夢見て

2020/11/11 No. 46

教育実習始まる～教えることの原点に戻って～

１１月９日（月）、出張のため大和町役場に行きました。１階のホールには、納税ポスターコンクールに応募した各校の児童生徒のみなさんの作品が展示してあります。力作揃いで子供たちのアイディアの豊富さと表現力には驚かされます。皆さんも役場に行く機会があったらぜひご覧ください（もちろん小野小学校のお子さんの作品も展示してあります）。

急に寒さが厳しくなった火曜日の朝、昨日はたくさんあった学校周辺の落ち葉が見事になくなっていました。（なんとなく）杉本さんや今野さんの顔が浮かび、お伺いしてみると、昨日お二人で掃除をしていてくださったことが分かりました。学校がたくさんの人たちの力によって支えていただいていることを改めて感じます。ありがとうございました。

今日から２名の教育実習の先生方をお迎えして、　担当の堀田先生から「実習生に期待すること」というテーマでお話をしてください、と依頼されました。その場で快諾は致しましたが、「健康に気を付けて頑張ってください」では、物足りないので、ここは、私たちが一番大事にしている授業に関わって話をしてみよう、と思い準備を進めることにしました。

さて、写真は１年生の教科書（東京書籍）です。単元は繰り上がりのあるたし算の導入です。もちろん教科書通り進めるのが基本なので、扱われている数、９と４は余程のことがない限り、いやここではほとんど絶対変えてはいけません。９と４に意味があるからです。

では、ここで扱われている題材「どんぐり」はどうでしょうか。それがキャンディやみかんではダメなのでしょうか。

私は、やはりここは「どんぐり」でいくべきだと考えています。その信念をもって、先日、どんぐりを拾いに近くの公園へ。実際に１年生で授業をするわけではないのですが、本物のどんぐりを提示したときの子供たちの喜んだ顔が目に浮かんでくるようで、この年齢なってもわくわくします。

算数の授業では、導入の「！」はとても大事です。もちろんいつも「どんぐり」のような具体物を準備できるわけではありませんが、実物は子供たちの興味・関心を惹くことは間違いありません。そして子供の「！」を**「！？」**に高めたとき授業が動き出します。

さて、もう一つ、どんぐりがよい理由に、そのサイズです。１年生の子供たちの手でも扱いやすく、しかも季節感があるので、算数で勉強した後は生活科でも応用できそうです。

よく言われることに「教科書を教える」「教科で教える」ということがあります。教科書は実によく考えられているので、教科書通り教えることは決して悪いことではありません。一方、私たちには教科書の行間を読む力が必要とされています。それは、同じ教科書を使っても、目の前にいる子供が違っているからです。

教育実習の期間は、学生さんに教えているようで、実は教材研究を一緒にする中で新たな発見をしたり、自分の学級を見直したりするよい機会ともなります。教育実習に取り組む学生さんの姿から、私たちも教職を志したあの日に思いをはせ、原点に戻って自らを振り返る機会となれば幸いです。

（文責：手代木）